

令和2年度2学期終業式校長式辞(令和2年12月24日リモートで実施)

今日で令和2年度の2学期が終了します。皆さんは、8月17日からの長いこの2学期、どのように過ごしたでしょうか。

私は、一人ひとりの在り様は違いますが、必ず皆さんの学力も人間力も成長していると思います。

しかし、これまで経験のないコロナ禍の毎日です。今までも、これから苦しいことがあるでしょう。迷うことがあるでしょう。どうすればよいのでしょうか。

ここでは、今週の月曜日と水曜日に、2年生の修学旅行代替行事の一環として行われた本校卒業生のリモートによる講演からヒントを頂きたいと思います。「はやぶさ」で話題のJAXAの西山和孝さん、海洋探査船「しんかい」を有するJAMSTICの吉田健太さん、サイバニクス研究の創設者・世界的権威の筑波大学・サイバーダイナミクス株式会社の山海嘉之さんの講演です。

三人の方に共通していることが二つあると考えます。一つ目は、大きな自分の物語をもつということです。二つ目は、立ち止まらず、できることをやる、チャレンジする、ということです。

一つ目の自分の物語をもつためには、次の問いに答える必要があります。

- ・一番大切なものは何か？
- ・何のために勉強しているのか？
- ・大学で、大学の向こう側の社会でどう生きるのか？
- ・家族のために何が出来るのか？
- ・社会のために何が出来るのか？

自分の物語をもつことによって、心を奮い立たせることができます。このとき、「自分が」ということは必須の内容です。しかし、自分のことだけでは大きな力は発揮できません。家族や社会のためにという、自分と繋がる大きな物語によって、更に大きな力が発揮できると考えられます。

二つ目の、立ち止まらず、できることをやる、チャレンジすることは、この三人の先輩だけでなく、今春の卒業生で大学1年の卒業生からも、次のような話を聞きました。

今の大学1年生は、周囲から、「かわいそうな学年だ。新型コロナウイルスのために友人もできないし、サークルにも入れない。」と同情されている。しかし、自分はこの半年間で「自分のコミュニティーは自分が獲得するものであること」を学んだ。昨年度までであれば、新入生が大学のキャンパスを歩けば、サークルの方から勧誘の働き掛けがあり、新入生は選

ぶという受動的な対応をしていけばよかった。今年度はキャンパスを歩くことさえできない。そこで自分は、インターネットでサークルやゼミの情報を調べ、自分から相手に働き掛け、直接のコミュニケーションも行い、自分が望むサークルやゼミに加入して充実した活動をしている。もちろん悩むことは多いけれど、立ち止まらない。

自分の物語をもち、立ち止まらないこと、これこそ、朝日が大切にしてきた「自主自律」のあらわれだと考えます。この精神で日々に立ち向かっていってほしいと願います。

次に、私が「自主自律」の基盤として日頃から考えていることをお話しします。

それは、「自分自身を大切にすること」です。皆さん一人ひとりが今ここにいて、自分が奇跡であり、かけがえのない大切なことです。自分自身を大切に、ここにいて仲間とともに高め合うこと。自分も他者も肯定して生きてほしいと考えています。「自重互敬」の精神をもってこの岡山朝日高校で過ごす日々の中で、一人ひとりの在り様は異なりますが、必ず、学力も人間力も成長していきます。

最後に新型コロナウイルス感染症対策についてです。現在、対策は新しい段階に入ったと思います。

県立高校でもクラスターが発生しました。12月21日には、岡山県医療非常事態宣言がなされました。伊原木隆太県知事と共同記者会見をされた岡山県医師会松山正春会長は本校卒業生です。

新型コロナ対策を、飛行機の飛び方に例えると、全面的な飛行停止にはしないが発着の便数を優先順位をつけてある程度絞り込みながら飛ぶ。そして、3000メートル級の山を飛び越えるときに、これまで4000メートルで飛んでいたとすると、7000メートル以上で飛ぶ、ということになると思います。

本校においても、行事等の活動に優先順位をつけてある程度絞り込みながら、マスク、換気等を徹底することが必要です。12月22日には6項目の徹底すべき対策を「コロナ禍での生活もう一度、振り返ろう」としてまとめ、教室掲示しました。このことは、学校だけでなく、家庭でも地域でも徹底が必要です。勿論、何が起きても偏見や差別につながる行為は、インターネット上も含めて絶対にしてはなりません。

本当に短い冬休みですが、この間の一人ひとりの成長を期待しています。みんな揃って1月8日の始業式に会いましょう。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)